

2023 年 元旦

2023 年 新年のご挨拶

大田区サッカー協会 大前卓

也

大田区サッカーファミリーの皆さんへ

明けましておめでとうございます

FIFA World Cup Qatar 2022 が“初めてづくし”の多い中で開催されました。そのような条件下、“SAMURAI BLUE”我が国代表は予選で“死のグループ“といわれたヨーロッパの強豪国ドイツ・スペインと同グループとなり、予選通過は困難視されていましたが、初戦のドイツには後半、三笥のドリブルから南野へスルーパス、そして折り返したボールを GK が弾いたが、フリーの堂安がゴチのゴールを決めやっと同点にし、続いて板倉のロングフリーキックの背面からきたボールを浅野がインステップに当て神業とも言えるトラップで前に落とし、相手 DF の抵抗を受けながらのドリブルでゴールニアサイドへ、そして角度のないところからネットの上に見事な勝ち越し点での勝利。一度目の”奇跡“。

二戦目のコスタリカ戦は、ドイツ戦の勝利に酔ったまま入り、いつでもゴールできるという慢心感が気の緩みか、また選手を多々入れ替えをしたが、後半 36 分に DF 陣のハイボールでのクリアミスで、まさかの失点、0：1 の敗戦となってしまった。サッカーには良くあ

る事例だと思いましたが、代表戦でもあるんだね！

三戦目のスペイン戦も初戦と同様、1点先制されたが、伊東が競り勝ったボールを足下に収めた堂安が強烈な左足のミドルシュートがゴール、またしても同点弾。続いて、堂安の早い右足でのシュート性のクロス、これを三笥がゴールラインキチキチで絶妙の切り返し、これを田中が膝で押し込み勝ち越し点。しかし、主審は三笥がゴールラインを割ったとノーゴールとしたが、VARが介入して1mmラインに残っていたと確認し、判定が覆り、逆転の勝利を掴み、二度目の“奇跡”で、ものの見事にグループリーグを首位で通過し、ベスト16のトーナメント戦に進出した。

我が、“SAMURAI BLUE”はドイツ・スペインといった強豪国に勝利したことで、暗い世相の中で明るい”NEWS“となり、老若男女日本中が二度の”奇跡“に沸きに沸いたのが、ついこの間のように思われます。

続いてのトーナメント1回戦対クロアチアは、前半終了間際、相手エリア内で吉田の右足アウトの折り返しを前田が左足で決め良い時間帯で勝利を信じたが、後半10分に典型的なゴール前へのクロスをファーから走り込んだペリシッチに見事なヘッドで叩き込まれ同点に、延長戦もお互いチャンスがありながら決め切れずPK戦となり南野、三笥、吉田と3人がGKとの駆け引きもなく教科書通りの左右への低いキックで完全に読み取られて万事休止でした。

少年のカテゴリーでも多く見られるようなPK戦で、あっさりし過ぎたシーンで前回準優勝のクロアチアとの差を感じさせられた。しかし結果的には日本のレベルが上がったことに

将来に希望が繋がったと確信した次第であります。

お陰で、で、サッカーが改めて日本で多くの人に認知され、ファンやサポーターまた、新しく始める人が増えてくること、これが日本のサッカー界に取ってはプラスになった World Cup であって欲しいと私の思いでありました。

相変わらずのコロナ禍で感染者数では未だに減少に向かっておらず危険な状態にあります。「OFA」ではファミリーの皆さん及び役員理事のご協力により鋭意“事業運営”を継続中であり、年度末には無事終わると確信する次第であります。

各カテゴリーの成果についてはやや不振に感じられるが、“TOKYO BAY CUP”で一昨年優勝した【大田区少年選抜】は昨年、準優勝で残念でしたが、育成年代では天辺に行くより、悔しさと伸び代を心に刻み努力をすることの方が良かったのではと思っています。関係者の皆さんのご尽力ご協力に深謝申し上げます。他のカテゴリーの皆さんの一踏ん張りに期待したいと思います。

最後になりますが、“新年のご挨拶”につき、本年が私の最後となります。

2000年に“会長に任せられ22年間という長期にわたり務めさせていただきました。これが長かった短かったは皆さんにお任せしますが、私にとっては本当にあっという間の出来事であったと感じている次第であります。

あと3ヶ月の任務をしながら、今一度、「総括」の投稿をする予定でありますので、宜し

くお願い申し上げます。 「サッカーは素晴らしいスポーツです！」

本年も大田区サッカーファミリーの皆さんに”幸“あれ！